

伊賀市社会事業協会 2010

2010年3月15日 第19号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL:0595-21-5545

FAX:0595-23-6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

「國民學校」の風景

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会

会長 森下 達也

今回は、大戦中に通っていた大連静浦小学校男子クラスに、親しくしていた中国人の友人がいたこと、しかし後年彼は、文化大革命に際し命を絶たれたらしいこと、などを書いた。恐らく彼の死は、私たち「日本鬼子」と共に学んだ反革命分子という指弾に因るものだったであろう。遠い日のことではあるが、私にとっては今も遣り切れない。この稿も、前回につづきこの小学校と私たちのクラスについて書きたい。大戦中の外地の小学校風景を書きのこすことにも、何程かの意味はあるであろう。本題に入る前に、初等教育学校の呼称として数年間使われた「國民學校」に触れておく。

年輩の方なら大抵ご存じであろうが、昭和十六年から同二十二年まで、制度改正によって小学校のことを國民學校と呼ぶことになったのである。戦時挙国体制に即応するもので敗戦と共にこの制度は歴史を終えたが、私が卒業したのは大戦さなかの昭和十九年春であるから、正しくは大連静浦國民學校と書くべきなのである。しかし今日では、押し並べて小学校と呼ぶようだからそれに倣う。

さて、小学校にまで軍国教育が徹底するようになったのは、太平洋戦争開戦以降であったと私は感じている。それまではリベラルな本音が、教師の口からぼろりと出ることもあった。然ういえば講堂での全校朝礼の時間に、情操教育と称してロシア民謡のレコードを流してくれた音楽教師がおられた。「ボルガの舟唄」にうっとり聞き入ったものである。何日かでやめになったが、今思えば教師としてかなり勇気のあることだったであろう。ソ連が侵攻する前とはいえ、白人への敵愾心を高めようとしていた時代なのだ。

昭和十七年の春、完璧な軍国主義校長が着任された。以後、零下十度に達する冬でも生徒はみな素足で廊下を拭き便器をみがくこととなった。校長ご自身も鉢巻をして実行されるのだから文句も言えないが、きびしい叱責の連発には閉口した。大らかで楽しい授業をされる先生の多い学校であったが、先生たちの間にも戸惑いが走

っていることを、生徒たちも敏感に気付いていたようだ。

昭和十八年の春、六年生になった私たちのクラスを、新しく赴任された先生が担任されることとなった。秋枝允先生、実は軍神秋枝中佐の兄君である。といっても今ではぴんと来る人の方が少ないだろう。特殊潜航艇で出撃し戦死された秋枝大尉（死後二階級特進して中佐となり軍神となる）のことで、当時大きく報道されたのだ。そのお兄さんを自校に迎えた校長の得意さは察するに余りあるが、担任される私たち生徒の方は戦々兢兢であった。

しかし、秋枝先生の人柄は私の予想とは違っていた。小柄で古武士のような風格をお持ちだが、生徒にはあたたかく手を上げることがなかった。軍神の兄としてひけらかすことはなく、むしろ然う呼ばれるのに困惑されているように感じた。ともあれ、先生にいつも付いて回る弟さんの軍功を要約してみよう。秋枝大尉は昭和十七年はるかアフリカ東南マガスカルの英国海軍基地に、一人の部下と共に乗り組む特殊潜航艇で潜入し、二本の魚雷を発射してタンカー一隻を撃沈、戦艦にも損傷を与え英国を仰天させた。戦後の現地調査によれば、大尉は母船である大型潜水艦伊第二十号への帰投に失敗、部下と共に上陸して拳銃で英軍と交戦し果てたという。

秋枝先生は、昭和二十二年焼野原と化した祖国に帰ったが、時流に流されつづけた教師職を慚じて辞し、開拓村に入って耕されたと聞く。昭和四十八年、今は水道工事店で働いているというお葉書を私に下さった。がやがて他界された。恩師もまた、時代に翻弄されながら戦中戦後を生きた私たちの同志だったのである。

（三重県社会福祉協議会会長）



松田昇写真集「風土記」より、一記憶の中の風景—関西線

絵本 大好き

第六回 みんなでえほん展

子育て支援センター「すくすくらんど」

子どもや保護者が絵本に関心を持ち、そのおもしろさに気づいて、絵本の好きな子どもに育ってほしいと願って、今年も二月十八日・十九日に、えほん展を曙保育園で開催しました。

会場のひまわりホールには、赤ちゃん絵本、図鑑、大型絵本、手作り絵本などおよそ二千冊を展示しました。訪れた親子は内容の豊富さに期待をふくらませて、絵本を一冊一冊手に取るうちに



絵本ボランティア「もこもこ」による読み聞かせ



大型絵本の世界に引き込まれます



「これだ!」という一冊に出会い、子どもを膝に抱いて絵本の世界に浸りながら豊かな時間を過ごしていました。また、絵本ボランティア「もこもこ」による絵本の紹介や読み聞かせもあり、子どもたちはますます絵本が好きになったようです。これからも、絵本の素晴らしさを発信し続ける子育て支援センターでありたいと思います。

「どんど焼き」 ～園児の健康を願って～ ひかり保育園

今年も隣接する平井神社からどんど焼きに招待され、園児の無病息災を願って参加させていただきました。子どもたちは、地域の方が持ち寄った門松やしめ縄、お札、お守りなどを「それっ!」とかけ声とともに「御火」にくべました。神社の氏子総代さんたちが、「どんどの餅を食べたら病気になるらへんで、しっかり食べて大きくなりや」と声をかけてくださると、子どもたちはおいしそうに餅をほおばりました。

地域の方に見守られながら伝統行事に参加し、心満ち足りた表情で神社を後にしました。



どんど焼きで心も体も温まります (平井神社境内)

出初め式

～子どもも大人も“火の用心”～ みどり第二保育園

1月10日、上野運動公園競技場において行なわれた伊賀市消防出初式に、幼年消防クラブに所属する曙保育園、ひかり保育園、みどり第二保育園、ゆめが丘保育所の子どもたちが参加しました。保護者に見守られながら防火はっぴを着て、ミニまといや防火の旗を持ち元気に入場行進をしました。その後、忍者に扮した伊賀市消防署員の方々と一緒に、忍ジャズダンスをおどり、最後に、「火遊びは絶対にしません」と元気よく防火の約束をしました。



まといを持って「火の用心」(上野運動公園)



土の感触を楽しむ子どもたち

祖父母参観にあわせて、友生地区在住の陶芸家・山崎繁高先生をお迎えして、陶芸教室を開催しました。

子どもたちは、早速陶土を手に取り「土の匂いがする」と感触を楽しみました。土が柔らかくなると、恐竜、うさぎや猫などの小動物、またお皿やコップを夢中になって作りました。

陶芸の楽しさや魅力を感じるとともに、祖父母とのふれあいのひとときを過ごし、子どもたちにとって思い出に残る一日になりました。

祖父母といっしょに 伊賀焼陶芸教室

友生保育園

新しい年を迎えたゆめが丘保育所に「地域と共に～子どもたちの健やかな成長を支える人たち～」と題したカレンダーが掛かっています。地域の方からのプレゼントです。

このカレンダーは、夏野菜の栽培、七夕の笹飾り、夏野菜カレーづくり、やきいも大会、クリスマス会など、年間を通してご支援をいただいている地域の方々の子どもの慈しむ気持ちが溢れた写真と暦でできています。おだやかな表情、やさしいまなざし、ぬく



子どもたちは毎日廊下のカレンダーを見ます

保育所の宝物 手づくりカレンダー ゆめが丘保育所

もりのある手が子どもたちをしっかりと包みこむような写真ばかりです。今にも楽しい語らいの声カレンダーの中から聞こえてきそうです。

人と人との触れ合いが、子どもを育てると言われています。「昨日、カレンダーのおじさんと出会ったよ」と目を輝かせて話す子どもの姿に、保育所で繰り広げられている世代間交流が、地域の絆を深めていることを感じています。また一つ、子どもたちの宝物が増えました。



地域の方々からプレゼントされた手作りカレンダー

きながら夢中で遊んでいました。

保育園を支えて下さっている地域の方々や大勢の保護者の皆さんで賑わった子どもフェスティバル。子どもの成長と保育の一端を知っていただき、子育ての楽しさを確かめていただく良い機会になったように思います。



身近な素材で工夫をこらした遊びコーナー

第二十四回

子どもフェスティバル

「ふしぎ発見 身近な素材は宝物」

今回の子どもフェスティバルは、「ふしぎ発見 身近な素材は宝物」をテーマに、当法人立十四保育園（所）がそれぞれに開催しました。

各園の会場には、創造力豊かな三・四・五歳児の絵画を展示し、身近な素材を使って子どもたちとともに作った空気砲、万華鏡、磁石あそびなど、子どもの好奇心をくすぐるあそびコーナーを設けました。子どもたちは、「なぜ」「どうして」「ふしぎだなあ」とつぶや

思いを乗せて、届け大切な人へ

身体障害者支援施設 梨丘園

老人・身障施設のページ



気持ちを手紙に綴ります

新年初めてのリハビリレクリエーションの時間、在園者に届いた年賀状をヒントに「大切な人に気持ちを伝えよう」というテーマで、親しい方々に手紙を書きました。

年始の挨拶にこだわらず、家族、友人への近況報告や、普段なかなか伝えられない気持ちを、紙面いっぱい綴りました。切り紙を貼ったり、指で色づけしたりして彩りを添え、それぞれに心のこもった手紙になりました。

書き上げたみなさんは、笑顔になるご家族や友人の顔を思い浮かべながら、思いがいつぱい詰まった手紙を、投函されました。

「冬空に輝きを増す梨ノ木園」

澄み渡った冬空の下、梨ノ木園の園舎が穏やかな日差しに映えています。

先の火災再建工事から20余年が経過し、風雨から在園者の暮らしを守り続けてきた園舎の外壁も、汚れが目立つようになってきました。

この度、外壁の防水塗装工事が終了し、皆様と一緒に気持ちよく新しい年を迎えることができました。

美しくよみがえった園舎が、在園者の笑顔で一層輝きを増すよう、努めていきたいと思ひます。



在園者の暮らしを守り続ける梨ノ木園



一枚一枚ていねいに描きます

楽しかった！美味しかった！

盲養護老人ホーム 梨ノ木園

新型インフルエンザの感染を防ぐため、毎年行なっている往古梨まつりを中止しました。そこで、年に一度のまつりを楽しみにされている在園者の「残念だ」という声にこたえて、「梨ノ木ふれあいまつり」を園内で開催しました。

集会室でのミニ運動会では、パン食い競争、在園者と職員が力を合わせた風船割り、紅白に分かれ一致団結した玉送りなど、大いに楽しい時間を過ごすことができました。昼食には、寿司職人の坂下美知浩様をお招きし、在園者の前でお寿司を握っていただきました。「握りたては美味しい！」



このパンは私のものよ!!

「もう一貫！」と寿司ネタが尽きてしまうほどの盛況ぶりでした。
みなさんからの「坂下さんありがとう」「今日はほんとうに楽しかったわ」の声に、五百貫程の寿司を握っていただいた坂下様も、とても喜んで下さいました。



寿司職人 坂下美知浩さん

ほけんだより ロコモティブシンドローム (ロコモ)について(その2)

ロコモは、運動器の機能が衰える病気であることを説明いたしました。今回は、ロコモの徴候とロコモーションチェック(ロコチェック)の説明をいたします。

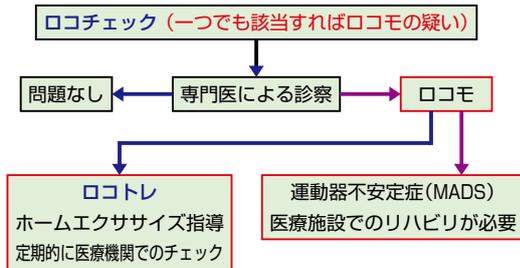
ロコモの徴候には、1. 痛み 2. 可動域制限 3. 変形 4. 筋力低下 5. バランス力低下 があります。

これらは徐々に進行するので皆さんが運動器機能低下に気がつきにくく、気付いたときにはもうすでに取り返しのつかないことになっていることが、往々に見られます。そこで日常生活動作の中から気付いてもらうために7つのロコチェックをしてみてください。7項目のうち1項目でも当てはまれば、立派なロコモです。

1. 片脚立ちで、靴下がはけない。
2. 家の中でつまずいたり、滑ったりする。
3. 階段を上がるのに、手すりが必要である。
4. 横断歩道を青信号で渡りきれない。
5. 15分くらい続けて歩けない。
6. 2kg程度(1Lの牛乳パック2個程度)の重い物をして持ち帰るのが困難である。
7. 家のやや重い仕事(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)が困難である。

以前は5項目でしたが、7項目に変更されました。自分では“元気”だと思っけていても、ロコチェックの項目にあげられているようなことがある状態を放置していると、介護が必要になったり、寝たきりになる可能性があります。1つでも当てはまる項目があった場合は、専門医にご相談ください。

今回は、ロコモの予防と対処法についてご説明いたします。



梨ノ木診療所々長 医師 山崎征治

「長寿おめでとう」です

特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園

二月三日、第二梨ノ木園では「長寿祝い会」を開催しました。今年の長寿者は七名。最長寿の数え百四歳の方が筆頭に、百三歳、百寿、百寿の方がそれぞれ一名、そして米寿の方が三名おられました。こんなにたくさんの方をお祝いさせていただいたのは初めてです。

初めは緊張した面持ちの主役の方々でしたが、祝福の言葉を掛けられると、「ありがとう」といつもの笑顔に戻られました。「こんなに嬉しいことはない」と涙を流して喜ばれる方もいらっしゃいました。



みなさんのお歳を合わせて670歳

参加されたご家族からは温かいお祝いの言葉が述べられ、若かりし頃のエピソードや故郷の話も出て、心温まるお祝いの会になりました。皆さん、これからもお元気で長生きして下さい。

しゃいました。

テーブルを囲んでの楽しい食事

デイサービスセンターなしのき

最近のデイサービス施設は、コスト削減等の理由から昼食を外注する施設も少なくありません。しかし当センターでは自園で食事提供することにより、手づくりの良さを味わっていただけるよう栄養士がさまざまな工夫をこらしています。

ご利用者の誕生日には、赤飯を用意して皆さんでお祝いの膳を囲んだり、行事に合わせた季節感のある食事を味わっていただけるようにしています。

二月三日の節分には、「手巻き寿司にかぶりつきたいわ」との要望を、早速献



美味しい食事笑顔がこぼれます



お誕生日おめでとうございます

立に取り入れられました。今年の恵方“西南西”を向き、皆で一緒にガブリ。笑顔で頬張る姿がとても印象的でした。“食べる”ことは、健康維持のため必要不可欠であり、楽しみでもあります。これからもご利用者の声を聞きながら、楽しい食事の時間を提供できるように心がけていきたいと思っております。

初 釜 "一服さしあげます"

かしの木ひろば

毎月第2火曜日には福井きんる先生、中森美年子先生、そして中山洋美先生にご奉仕をいただき、お茶会を開いています。

正月12日には「初釜」を開きました。釜から立ちのぼる湯気に包まれた温かい部屋に、湯が沸き立つ音と茶筌の音が響き、ゆったりと時間が流れていきます。手前に運ばれた金・銀箔のお茶碗で一口お茶をいただくと、少し緊張した面持ちの皆さんから笑顔がこぼれます。先生は「皆さんにこのゆったりとした時間の流れを共有していただきたい」とおっしゃいます。

これからも季節の花や茶器、お菓子、そして先生の着物姿に四季の移り変わりを楽しく感じさせていただきながら、日本の伝統文化にふれるひとときを大切にしたいと思います。



先生がやさしく指導してくれます

成人のお祝い

かしの木ひろば



かしの木ひろばは今年の4月で開設17年目を迎えます。1月12日には開設以来9人目となる新成人、鎌田ゆうか様のお祝いをしました。お気に入りの曲「ひよっこりひょうたん島」をご利用者のみんなと一緒にうたい、参加されたみなさんから「おめでとう！」

と声を掛けられると、満面の笑みで応えてくれました。

みんなから握手攻めにあい、素敵な笑顔が20歳の春に華を添えました。お祝いに参加されたご利用者のみなさんや職員も、とても温かい気持ちになることができました。大好きな「モーニング娘。」の音楽が流れる中で



大好きな「モーニング娘。」の音楽が流れる中で



国立民族学博物館にて

上野点字図書館では、日頃より点訳並びに音訳にご協力いただいているボランティアの皆様方の研修と親睦を兼ねて「ボランティア合同研修会」を毎年実施しています。今回は、十二月四日に大阪市北区中之島にある日本銀行大阪支店と大阪府吹田市にある国立民族学博物館を見学しました。

活に大きく影響を与えることでもあり、昨今の世界の金融情勢は、不安定な状況にあり、様々な金融政策を行わない景気をコントロールしている日本銀行の役割やその業務は、私たちの生活に大きく影響を与えることでもあり、銀行である日本銀行の果たす役割をあらためて知ることができました。国立民族学博物館は、世界民族の社会と文化に関する情報を提供することで、異文化についての理解を深めることを目的とした施設です。同館では、世界各国の民族資料を見ることができ、世界各國の民族資料を見ることで、有意義な一日を過ごすことができました。今後のボランティア活動に大いに参考にしていただける、実りある研修会になったと思います。



築100余年の日本銀行大阪支店にて

ボランティア合同研修会

上野点字図書館

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々

(平成21年11月～平成22年2月)

個人

敬称略・五十音順

井岡 昭、石原 京子、伊藤 良子、稲森千鶴子、稲森 律子、猪木 千里、井本 吉隆、上野夕工子、上村 純子、太田 久子、岡森 金一、岡森 泰造、小川 秀貴、奥田 英夫、奥田やえ子、尾崎 薫、川浪 和夫、川原 恵美、北泉 優子、北出加代子、葛岡エミ子、小林ふじ智、坂下美知浩、清水 栄子、清水みどり、須川きよ子、杉本ちえみ、村主千代子、朱雀 文雄、角田 清角田 充代、曾我 京子、田中美代子、谷本 洋、山山紗知子、塚本 初子、辻村 勝則、戸上 宗賢、豊岡 百子、豊田 寛、中ミキ子、中川 定子、中森 勇、中森 洋子、中山 洋美、西出 成子、西山 正幸、廣岡 健夫、藤井 充子、藤島 千代、藤林 政代、藤森 直美、前川 健二、前川 光枝、松田 玉江、南出 寛三、宮土 和子、森 令子、森岡 佑子、森下 弘子、森田 満枝、森中 一美、森西 明美、矢口キ又代、矢倉 昌、保田 信治、山口 義美、山崎 繁高、山田 龍男、山出 治男

団体

敬称略・順不同

上野点訳奉仕グループあい、上野音訳グループしのび、名張点訳奉仕グループあかり、名張音訳グループこだま、絵手紙ひろば、絵本ボランティア「もこもこ」、蕉門ホール「語り部塾」、ボランティアアグリグループあゆみ、ボランティアアグリグループミックスジュニア、長田小学校、寺田市民館、寺町自治会、徳居町自治会、長田地区住民自治協議会、花垣地区、花之本地区、三田地区住民自治協議会福祉部会、しらさき地区民生児童委員、東部地区民生児童委員協議会、花垣地区民生児童委員、府中地区民生児童委員、曙保育園保護者会、睦保育園保護者会、三田保育園保護者会、中瀬城東保育園保護者会、友生保育園保護者会、花之本保育園保護者会、予野保育園保護者会、長田保育園保護者会、古山保育園保護者会、みどり保育園保護者会、ひかり保育園保護者会、ゆめが丘保育所保護者会、上野車坂町白百合の会、神戸老人クラブ連合会、神戸老人クラブ連合会婦人部、寺町老人会、徳居町老人クラブ、中瀬老人クラブ連合会、福居町老人クラブ、伊賀市上野視覚障害者福祉会、伊賀市更生保護女性会上野支部、伊賀地区交通安全協会女性部会、生野区社会福祉施設連絡会、白ゆり会、チャールズ会、ひよっこ育成クラブ、部落解放同盟寺田支部、三重県私立保育連盟、岡八幡宮獅子神楽保存会、田守神社、日蓮宗法音寺上野支院安立寺、井村屋製菓、井本薬局、小川整備、小川モーターズ、サンシヨク、中京テレビ、トヨタL&F中部、人形のまるよし

ルイ・ブライユ生誕二〇〇年記念「点字の世界」展

上野点字図書館

昨年の十二月一日から十二日まで、伊賀市銀座・和ホールのギャラリーで「点字の世界」展を開催しました。これは、二〇〇九年が点字の考案者ルイ・ブライユの生誕二〇〇年と日本点字の翻案者石川倉次の生誕二五〇年にあたるのを機会に、広く一般の方々に点字や点字図書館の仕事を知っていただき、視覚障がい者福祉の充実に二層の理解を得ることを目的としたものです。

ギャラリーは、道路に面する長さ約十二メートルのショーウィンドウスタイル。ブライユや石川倉次などを紹介するパネルを壁面に取り付け、その前に点字の新明解国語辞典(全五〇巻)、ボランティアの方々へ点訳や音訳をしていただいた図書、点字雑誌、点字タイプライターや点字器、点字付きの商品、図書の郵送袋、地球儀などを並べて展示しました。

また、開期中の日曜日・六日にはギャラリーに隣接するホールで「点字教室」を開催。会場内には、ギャラリーに置けなかった機器類や生活用具なども展示し、来場者には職員が個々に点字の説明をして、しおりや名刺に自分の名前を書いていたいただきました。

なお、展示会が終わった後も、点訳をしたいという問い合わせをいただいています。ささやかな試みでしたが、今後につながる反響が得られたことを嬉しく思っています。



熱心に学ぶ来場者に、説明にも熱が入ります

この会報誌は当法人のホームページでもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
<http://www.iga-sjk.or.jp/>



編集後記

昨年末、NHKでスペシャルドラマ「坂の上の雲」が放映され、更に今年は、大河ドラマ「龍馬伝」が始まりました。いずれも江戸末期から明治維新を経て近代国家を切り開いた若者の姿を描いています。そこには、目標に向かって生き抜いた彼らの勇気と情熱が力強く感じられます。今、混迷する社会にこそ求められるのはこのような勇気や情熱ではないのでしょうか。私たち、福祉に携わる者にとっても、このエネルギーで進取な気持ちは一人ひとりを持ち続けたいものです。当会報のタイトルも「2009」から「2010」に変わり、おかげさまで第19号を発行できるようになりました。今後とも温かいご意見ご感想をいただければ幸いです。(編集者S)

施設案内

在宅障がい者の方とともに歩んだ十七年

かしの木ひろば

かしの木ひろばは、当法人の発祥の地（戦後間もない頃の主に寡婦の授産所）であり、七つの寺が並ぶ寺町通りの最も南に位置しています。時代の移り変わりとともに変化し、身体障害者福祉会館を経て、平成六年四月、盲人ホームの改築と共に、県下初の介護型の在宅障害者デイサービス施設として開設しました。現在は、通所・訪問・相談事業を実施しています。



昭和25年頃の授産所



かしの木ひろば正面

す。十名のヘルパーが、身体介護、家事・生活援助、通院介助、移動（外出）支援、乗降介助、福祉有償運送等、多岐にわたる支援を行なっています。特に平成二十年九月に福祉有償運送を開始し、児童の登下校支援や、通院、買い物、余暇活動等、支援の幅が広がり、今までに、以上に、ご利用

通所事業は、生活介護事業所として定員二十名で運営しています。送迎・入浴・食事等の身体介助を中心に、日常生活訓練、軽作業などの支援を行なっており、リハビリは、三重県の身障者センターの巡回指導を受け、看護師と共に実施しています。

訪問事業は、現在七十六名のご利用者の登録があります。

これからの、かしの木ひろばは、職員同士が報告を密に行ない、関連機関との連携を大切にしながら、ご利用者が住み慣れた地域の中で、安心して生活できるように、真心のこもった支援を続けていきたいと思



創作活動を楽しめるみなさん

ヘルパー訪問が楽しみです

訪問事業は、現在七十六名のご利用者の登録があります。

かしの木ひろばは、現在七十六名のご利用者の登録があります。



送迎サービスも行なっております

梨ノ木診療所では、来院を希望されます患者様のご自宅までお迎えにお伺いいたします。ふだん病院に行きたくても、交通の便等の問題でなかなか病院に行けないという方、お気軽にお問合せ下さい。なお、送迎にかかる費用はいただきません。



また、4月より第3土曜日の診療を行ないますのでご利用下さい。

お問合せ先 〒518-0032
三重県伊賀市朝屋2284
TEL : 0595-26-5533
FAX : 0595-26-5534



☆この会報に掲載した個人情報は、ご本人もしくはご家族の承諾をいただいております。